

教員の研究活動 2008年4月～2009年3月



大学校長

【論文】

田村やよひ(2008). 保健師助産師看護師法と看護教育の課題. 保健の科学, 50(5), 302-306.

【著書】

田村やよひ(2008). 私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法. 日本看護協会出版会, 東京.

田村やよひ(2008). 看護制度のこれまでの重要な改革, 看護師不足と人材確保法の制定, 看護サービスの場の拡大と専門性の拡大, 国際機関との連携, 経済連携協定と看護の国際化. 日本看護歴史学会編, 川島みどり, 草刈淳子, 氏家幸子, 高橋みや子監修, 日本の看護120年—歴史をつくるあなたへ. 44-47, 63-68, 日本看護協会出版会, 東京.

田村やよひ(2009). 新体系看護学全書<39>国際看護学. 田村やよひ編, メヂカルフレンド社, 1-9, 237-241, 東京.

【誌上発表】

清水嘉与子, 田村やよひ(2008). “私たちの法律”は, こうしてつくられた. 看護, 60(9), 50-54.

スザンヌ・ゴードン, シオバン・ネルソン, 井部俊子, 勝原裕美子, 川島みどり, 陣田泰子, 田村やよひ, 東めぐみ他(2008). 看護の危機についてコンセンサスはあるか?. 看護実践の科学, 33(9), 70-78.

田村やよひ(2008). No.23 看護職員需給問題, No.53 守秘義務, No.83 保健師助産師看護師法(保助看法). 日本看護管理学会編, 看護管理用語集. 2008/7/30, http://janap.umin.ac.jp/new_HP/yougo/mokuji.html.

【講演・学会発表】

古橋美智子, 田村やよひ, 平林勝政(2008). 保健師助産師看護師法を読み解く(鼎談). 第13回日本看護サミットとうきょう'08, 東京, 11月.

人間科学(情報学)

【論文】

高山充, 竹内文生(2009). 関東圏における看護師紹介予定派遣の利用状況についての一考察. 日本医療・病院管理学会誌, 46(1), 17-27.

【誌上発表】

柏木公一(2008). 国際医療用語集 SNOMED-CT の成立と概要, 日本への影響. 情報管理, 51(4), 243-250.

柏木公一(2008). 電子カルテ導入の意義. 看護, 60(10), 40-43.

柏木公一(2009). 看護用語の標準化に関する世界的動向, 看護診断, 14(1), 51-57.

【研究助成および研究成果報告書】

柏木公一(2008). 国際医療用語集を日本語で利用するための知識ベースの開発. 平成20年度科学研究費補助金.

岡田美保子, 横井英人, 小出大介, 柏木公一, 武隈良治, 土屋文人(2008). 国際化を踏まえた医薬品・医療機器の安全性情報の伝達に関する研究. 平成20年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業).

内藤智雄, 稲葉静代, 上野桂子, 柏木公一, 小島純司, 高田桂子, 中川奈緒美, 中安紘子, 野崎加世子, 荒川孝之(2008). IT活用による記録・帳票類の管理体制の在り方に関する研究. 平成19年度厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業).

【講演・学会発表】

柏木公一(2008). 看護用語の標準化—最新の動向. 日本看護診断学会, 横浜, 7月.

柏木公一(2008). ISO TC215 WG3 の標準規格概説. 日本医療情報学会, 横浜, 11月.

人間科学(心理学)

【誌上発表】

鉦鹿健吉(2009). 心理学関連の体験学習によって学生の受容力を伸ばす試み. 国立看護大学校研究紀要, 8(1), 49-54.

人間科学(語学)

[論文]

Matsuoka, R. (2008). Communication apprehension among Japanese college students. *Journal of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 12(2), 37-48.

Matsuoka, R., & Smith, I. (2008). Comparison of Japanese and Thai college students' WTC and CA. *Proceedings of PAAL*, 123-124.

Matsuoka, R., Smith, I., & Uchimura, M. (2009). Discourse analysis of encouragement in Japanese healthcare comic books. *The Journal of Nursing Studies, National College of Nursing, Japan*, 8(1), 31-41.

[講演・学会発表]

Matsuoka, R., & Uchimura, M. (2008). *Encouragement in healthcare communication*. PanSIG conference, Kyoto, Japan, May.

Matsuoka, R. (2008). *Age effects in SLA*. AsiaTEFL conference, Bali, Indonesia, August.

Matsuoka, R. (2008). *Language relativity in RAKUGO translation*. The FIT World Congress, Shanghai, China, August.

Matsuoka, R. (2008). *Japanese and Thai college students' WTC and CA*. PAAL conference, HI, USA, August.

Matsuoka, R., & Smith, I. (2008). *Willingness to communicate and communication apprehension among Japanese college students*. AILA World congress, Essen, Germany, August.

人間科学(保健行政学)

[論文]

森山幹夫(2008). 資格と業務独占と名称独占. 保育界, 408, 32-33.

村上美佳, 森山幹夫(2008). 重症心身障害児(者)病棟における介護福祉職配置が患者の療養環境向上に与える影響. 医療の広場, 48(5), 18-21.

森山幹夫(2009). 看護法人制度の可能性についての考察. 国立看護大学校研究紀要, 8(1), 43-48.

[著書]

森山幹夫(2009). 法律と倫理. 日本染色体遺伝子検査学会編, 染色体遺伝子検査の分かりやすい説明ガイドライン普及版. 21-30, 日本染色体遺伝子検査学会, 東京.

[講演・学会発表]

森山幹夫(2008). 社会福祉と更生保護の連携. 法務省法務総合研修所, 東京, 6月.

森山幹夫(2008). 染色体・遺伝子検査分野における倫理と情報保護の見直しの動向. 日本染色体遺伝子検査学会, 香川, 11月.

人間科学(生命科学)

[講演・学会発表]

天沼喜美子, 小島靖, 太田有子, 竹村玲子, 芦澤一英, 森川馨(2009). 海外規制機関からの医薬品安全性情報-エリスロポエチン製剤について-. 第129回日本薬学会年会, 京都, 3月.

基礎看護学(看護基礎科学)

[研究助成および研究成果報告書]

森那美子(2008). 看護師の生物災害に対する準備性および教育に関する研究. 平成20年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 研究成果報告書.

切替照雄(主任研究員), 工藤宏一郎, 加藤はる, 中村浩幸, 大久保憲, 河野文夫, 西岡みどり, 網島優, 掛水智子, 吉田真由美, 菊池ひで子, 菊池喜博, 三木祐, 田中征雄, 原かおり, 富成伸次郎, 阿島美奈, 陰下敏明, 吉田弘之, 乾宏行, 大谷久美子, 岩井朝幸, 高須賀久美子, 佐藤穰, 加藤由紀恵, 佐野ありさ, 鬼塚聖子, 斉藤昭彦, 小林信一, 平松玉江, 八木哲也, 鈴木奈緒子, 前川裕子, 藤崎浩太郎, 島田知子, 菅原美絵, 三浦祥子, 加藤康幸, 竹下望, 高崎仁, 森兼啓太, 藤田烈, 坂木晴世, 窪田志穂, 黒田恵美, 森那美子(研究協力)(2008). 医療機関における感染症伝播に関する研究. 平成20年度厚生労働科学研究費補助金による新興・再興感染症研究事業.

基礎看護学(基礎看護援助学)

[論文]

穴沢小百合, 吉満祥子, 松山友子(2009). 点滴静脈注射中の寝衣交換に関する課題を実施した学生の経験: 滴下可能な作製教材を使用して. 国立病院看護研究学会誌, 5(1), 2-10.

一色美穂, 松山友子(2009). 看護師が臨床で行なっている清潔ケアに関するアセスメントの特徴: 清拭に焦点を当てて. 国立病院看護研究学会誌, 5(1), 30-39.

[講演・学会発表]

岸達也, 松山友子(2008). 新人看護師の職場適応の促進に焦点を当てた研究の現状—2002年から2006年までの国内文献の研究内容の分析を通して. 第6回国立病院看護研究学会学術集会, 仙台, 12月.

高橋智子, 田代公美, 角諒子, 松山友子(2008). 退院後のオストメイトが初回ストーマ外来受診までに直面した困難及びストーマケアの現状の解明—看護記録を用いた調査から. 第6回国立病院看護研究学会学術集会, 仙台, 12月.

田島智子, 松山友子(2008). 看護学実習における実習指導者の関わりとそれによる学生の反応に焦点を当てた研究の現状—1997年から2006年までの国内文献の研究内容の分析を通して. 第6回国立病院看護研究学会学術集会, 仙台, 12月.

基礎看護学(看護教育学)

[論文]

亀岡智美, 舟島なをみ, 野本百合子, 村上みち子, 鈴木美和(2008). FDの企画運営に携わる看護学教員が直面している活動上の問題—看護系大学・短期大学の面接調査を通して. 日本看護研究学会雑誌, 31(5), 57-62.

[誌上発表]

亀岡智美(2008). 「新人看護師支援のための研究成果活用と課題」—シンポジウムの司会にあたって. 看護教育学研究, 17(2), 17.

亀岡智美監修(2008). 「看護研究」の基本. *Nursing College*, 12(12), 86-90.

[講演・学会発表]

Kameoka, T., Funashima, N., Nakayama, T., Suzuki, M., Nomoto, Y., & Yoshitomi, M. (2008). *Problems that hospital nurses encounter in Japan from the viewpoint of work position: Toward developing effective continuing education programs in nursing*. 19th International Nursing Research Congress Focusing on Evidence-Based Practice, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, Singapore, July.

Miyashiba, T., Funashima, N., Miura, H., & Kameoka, T. (2008). *The relationship between personal attributes and quality of teaching behaviors of nursing faculty in nursing skills laboratories on campus in Japan*. 19th International Nursing Research Congress Focusing on Evidence-Based Practice, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, Singapore, July.

Yoshitomi, M., Funashima, N., Miura, H., & Kameoka, T. (2008). *The relationship between preceptor role performance for new graduate nurses and preceptors' attributes in Japan*. 19th International Nursing Research Congress Focusing on Evidence-Based Practice, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, Singapore, July.

Gorzka, P., Funashima, N., Hongo, K., Kameoka, T., Miura, H., Yamashita, N., Nakayama, T., Sugimori, M., & Murakami, M. (2008). *Role model behaviors of nursing faculty in the United States and Japan, toward enriching faculty development*. Education Summit 2008, National League for Nursing, San Antonio, TX, U.S.A, September.

中原博美, 亀岡智美(2008). 新人看護師の職業的成熟度に関する研究—現状および職業継続意思との関係. 日本看護研究学会雑誌, 31(3), 162.

基礎看護学(看護管理学)

[論文]

Chiang-Hanisko, L., Ross, R., Boonyanurak, P., Ozawa, M., & Chiang, L. (2008). Pathways to progress in nursing: Understanding career patterns in Japan, Taiwan and Thailand. *OJIN: The Online Journal of Issues in Nursing*, 13(3), Manuscript 4.

西岡みどり, 森那美子, 坂本晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太(2009). 日本における医療関連感染サーベイランスと病院規模に関する文献検討. 国立看護大学校研究紀要, 8(1), 10-19.

[誌上発表]

西岡みどり(2008). [総説 周産期医療における感染対策]2 看護の立場から. *CARLISLE*, 13(3), 2-3.

西岡みどり(2008). [実例から学ぶ手術部位感染対策]日本と欧米での手術部位感染サーベイランス結果の違い. *INFECTION CONTROL*, 18(1), 50-53.

坂木晴世, 西岡みどり(2008). [小児科領域の院内感染]感染対策チーム, 感染管理看護師. *小児科*, 49(5), 541-544.

[研究助成および研究成果報告書]

西岡みどり(2008). 病院施設の規模別の感染対策の実態調査(分担研究). 医療機関における感染症伝播に関する研究(主任研究者:切替照雄). 平成20年度厚生労働科学研究費補助金による新興・再興感染症研究事業.

西岡みどり, 水野正之, 木下佳子(2008). ICUにおける人工呼吸器関連肺炎 ventilator-associated pneumonia (VAP)防止に関する実態調査. 平成20年度大磯フォーラム研究事業.

西岡みどり(2009). 分担研究報告書, 病院施設の規模別の感染対策の実態調査(分担研究). 医療機関における感染症伝播に関する研究(主任研究者:切替照雄). 平成20年度厚生労働科学研究費補助金による新興・再興感染症研究事業.

[講演・学会発表]

Ross, R., Srisaeng, P., Sawatphanit, Q., Mizuno, M., & Takeo, K. (2008). *What effects do Physical Symptoms and Religious Beliefs and Practices have on Depression among HIV Positive Postpartum Buddhist Women in Thailand?*. 34th Annual Conference of The Transcultural Nursing Society, U.S.A, September.

西岡みどり, 森那美子, 坂木晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太(2009). 日本の病院における感染管理活動に関する人的資源および概算人件費の施設規模比較. 第24回日本環境感染学会総会, 横浜, 2月.

西岡みどり(2009). [第79回ICD講習会]SSIサーベイランス. 第24回日本環境感染学会総会, 横浜, 2月.

西岡みどり(2009). [シンポジウム5 中小病院での感染対策に何が必要か]中小病院におけるサーベイランス. 第24回日本環境感染学会総会, 横浜, 2月.

成人看護学

[論文]

Koyama, Y., Miyashita, M., Irie, S., Yamamoto, M., Karita, T., Moro, T., Takatori, Y., & Kazuma, K. (2008). A study of disease management activities of hip osteoarthritis patients under conservative treatment. *Journal of Orthopaedic Nursing*, 12(2), 75-83.

中山由美, 大町弥生, 伊藤良子, 綿貫成明(2009). ICU看護の事例を通して看護学生が捉えた患者・家族への看護. *日本救急看護学会雑誌*, 10(3), 25-32.

[著書]

綿貫成明(2008). せん妄. 金川克子監修, 田高悦子, 河野あゆみ編著, 老年症候群別看護ケア関連図&ケアプロトコル. 168-185, 中央法規出版, 東京.

鈴木恭子, 加藤陽子(2008). 問診・視診・触診時の看護. 野村和弘, 平出朝子監修, 加藤抱一編. *がん看護実践シリーズ—4 食道がん*. 21-22, メヂカルフレンド社, 東京.

鈴木恭子, 加藤陽子(2008). 食道X線検査 検査に伴う看護. 野村和弘, 平出朝子監修 加藤抱一編. *がん看護実践シリーズ—4 食道がん*. 27-28, メヂカルフレンド社, 東京.

加藤陽子(2008). 患者の自立・社会復帰のためのチーム医療の展開. 野村和弘, 平出朝子監修, 加藤抱一編. *がん看護実践シリーズ—4 食道がん*. 114-130, メヂカルフレンド社, 東京.

加藤陽子(2008). ターミナル期にある食道がん患者の看護の特徴. 野村和弘, 平出朝子監修, 加藤抱一編. *がん看護実践シリーズ—4 食道がん*. 132, メヂカルフレンド社, 東京.

[誌上発表]

飯野京子(2009). 第II章:がん治療の目標と効果, 第III章:化学療法の原則. Polovich, M., White, J. J., & Kelleher, O. L. 著/佐藤禮子監訳. *がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン*. 19-27, 医学書院, 東京.

小山友里江, 宮下光令, 数間恵子, 高取吉雄(2008). 変形性股関節症のADLとQOL 寛骨臼回転骨切り術(RAO)を受けた患者の生活. *Journal of Clinical Rehabilitation*, 17(4), 344-349.

近藤祐未, 末吉真由美(2009). 【オンコロジックエマージェンシー】病態の進展に伴う症状—消化管穿孔. *がん看護*, 14(1), 17-19.

[研究助成および研究成果報告書]

小山友里江(分担研究者)(2008). 運動器機能障害の評価に関する研究(主任研究者:高取吉雄). 平成19年日本メディカルマテリアル株式会社受託研究報告書.

三浦久幸(主任研究者), 丸口ミサエ(分担研究者), 小西敏子, 飯野京子, 小山友里江, 上原ます子(共同研究者)(2006-2009). 高齢者の終末期医療・ケアの地域連携モデルの構築と終末期ガイドライン作成, 高齢者がん患者のターミナルケアにおける問題点に関する研究—山間へき地におけるがん終末期患者の緩和ケアおよびがん性疼痛緩和の現状. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業(長寿一般-041).

[講演・学会発表]

Uesugi, H. & Iino, K. (2008). *Quality of life in advanced lung cancer patients who undergo chemotherapy*. The 15th International Conference on Cancer Nursing, Singapore, August.

三浦由梨, 佐藤貴子, 池島愛, 飯野京子(2008). 「終末期医療に関するガイドライン」に沿った終末期医療に関する方向性を決定するための看護師の役割—患者・家族の意思決定を支えるための看護. 第6回国立病院看護研究学会学術集録集, 81.

浅野和子, 石川清美, 小田勢津子, 間雅子, 鈴木敬子, 江原くるみ, 小澤絹恵, 鎌田良子, 鈴木由美子, 久部洋子(2008). 副看護部長が行う子育て支援の検討. 第6回国立病院看護研究学会学術集録集, 54.

綿貫成明, 酒井郁子, 松川仙奈(2008). 成人老年期にある患者の術後せん妄に関連する素因子・直接因子・誘発因子と発症パターン. 第28回日本看護科学学会学術集録講演集, 264.

平木尚美, 大町弥生, 綿貫成明, 坂東正己, 山田一郎(2008). ヒーリングベビーを用いたコミュニケーション場面におけるスタッフの介入内容と認知症高齢者の反応. 日本看護研究学会雑誌, 31(3), 305.

山川聖史, 小山友里江, 穂積高弘, 宮山祐, 秋山宏一郎, 田中健之, 飯島準一, 五嶋孝博, 近藤泰児(2008). FACT-Gを用いた転移性脊椎腫瘍に対する術中照射療法のQOL調査. 第57回東日本整形災害外科学会雑誌, 20(3), 389.

時廣亜希子(2008). DES時代の患者管理. 近畿心臓血管治療ジョイントライブ2008. 京都, 4月.

成育看護学(小児看護学)

[論文]

駒松仁子(2009). 小児慢性疾患のキャリアオーバーと成育看護の課題. 国立看護大学校研究紀要, 8(1), 20-30.

中村伸枝, 遠藤数江, 荒木暁子, 出野慶子, 佐藤奈保, 小川純子, 金丸友(2009). 子育て支援センターを利用する幼児をもつ母親の健康・生活習慣への関心を高める看護援助. 千葉大学看護学部紀要, 31, 1-4.

[著書]

駒松仁子(2008). 小児の発達課題と小児生活習慣病指導の基本. 松下竹次, 萬弘子編, 生活習慣病ナーシング7. 269-275, メヂカルフレンド社, 東京.

駒松仁子(2008). キャリアオーバーと成育医療, そして成育看護. 松下竹次監修, 駒松仁子編, キャリアオーバーと成育医療—小児慢性疾患患者の日常生活の向上のために. 2-7, へるす出版, 東京.

[誌上発表]

駒松仁子(2008). 小児慢性疾患のキャリアオーバーと成育医療そして成育看護. 岡山県小児科医会会報, 29, 46-53.

駒松仁子(2008). 「母と涙の二二分」がモットーの三田谷啓. さぼーと, 620, 46-50.

駒松仁子(2009). 小児慢性疾患のキャリアオーバーと成育医療・看護に関する文献目録. 国立看護大学校研究紀要, 8(1), 55-79.

[研究助成および研究成果報告書]

佐藤拓代, 上野昌江, 山田和子, 来生奈巳子, 毛受子, 秋末珠実, 鈴木信恵, 露詰公子, 桑田俊子(2009). 妊娠・出産・育児期の要支援家庭への訪問指導のあり方に関する研究(分担研究). 医療ネグレクトにおける医療・福祉・司法が連携した対応のあり方に関する研究(主任研究者:宮本信也). 平成20年度厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業(H20-政策一般-003)総括・分担研究報告書, 68-123.

[講演・学会発表]

金丸友, 中村伸枝, 出野慶子, 遠藤数江(2008). 糖尿病をもつ学童後期・思春期の子どものフットケアに対する支援の検討. 第13回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 金沢, 8月.

中村伸枝, 遠藤数江, 荒木暁子, 小川純子, 佐藤奈保, 金丸友, 出野慶子(2008). 子育て支援センターを利用した幼児をもつ母親の健康・生活習慣への関心を高める看護活動. 第55回日本小児保健学会, 札幌, 9月.

成育看護学(母性看護学)

[論文]

Sawai, S., Takai, Y., Saegusa, K., Yoshioka, T., & Fukunaga, T. (2008). Levels of muscular activity in different parts of the body during basic nursing action. *International Journal of Sport and Health Science*, 6, 1-14.

精神看護学

[論文]

Yamashita, M., & Amagai, M. (2008). Family caregiving in dementia in Japan. *Applied Nursing Research*, 21 (4), 227-231.

山口朝子, 天谷真奈美, 関根正 (2008). 精神疾患患者が認識するよい看護に関する研究. 第 39 回日本看護学会論文集(精神看護), 24-26.

[著書]

天谷真奈美 (2008). 医療保険制度の仕組み. 訪問看護. 在宅サービス. 野中猛監修, 植田敏幸, 佐々木明子編, 精神保健制度ガイド. 26-27, 56-57, 78-79, 中山書店, 東京.

阿部由香 (2008). 診療報酬の体系. 診療報酬の決まり方. 診療報酬制度. 支払い方式. 野中猛監修, 植田敏幸, 佐々木明子編, 精神保健制度ガイド. 28-35, 中山書店, 東京.

田中留伊 (2008). 初診料. 再診料. 調剤料. 紹介状. 入院基本料. 特定入院料. リハビリテーション料. 野中猛監修, 植田敏幸, 佐々木明子編, 精神保健制度ガイド. 36-47, 中山書店, 東京.

田中留伊 (2008). 行動制限. 川野雅資編著, 精神科看護ケア関連図. 208-215, 中央法規出版, 東京.

[研究助成および研究成果報告書]

天谷真奈美, 鈴木麻揚 (2008). 精神障害者の社会参加効力感尺度簡易版の開発と日米間比較. 平成 20 年度科学研究費補助金事業.

天谷真奈美 (2008). 精神障害者社会参加効力感尺度の標準化(分担研究). 精神障害者社会参加効力感尺度の関連因子の検討 (主任研究者: 鈴木麻揚). 平成 20 年度木村看護教育振興財団看護研究助成.

田中留伊 (2008). 規制薬物を乱用する生徒への対応における学校と警察の連携(分担研究). 薬物需要削減対策における関係機関の連携(班長: 富永格, 統括責任者: 平井慎二). 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業).

[講演・学会発表]

Amagai, M., Suzuki, M., Shibata, F., Abe, Y., Kobayashi, N., Sekine, T., Campbell, K., & Kayaba, K. (2008). *Standardization of the self-efficacy for social participation for people with psychiatric disabilities (SESP-27)*. The 10th International Congress of Behavioral Medicine, Tokyo, Japan, August.

Suzuki, M., Amagai, M., Shibata, F., Abe, Y., Kobayashi, N., Sekine, T., Campbell, K., & Kayaba, K. (2008). *Comparison of self-efficacy for social participation between competitively and non-competitively employed consumers with psychiatric disabilities*. The 10th International Congress of Behavioral Medicine, Tokyo, Japan, August.

山口朝子, 天谷真奈美, 関根正 (2008). 精神疾患患者が認識するよい看護に関する研究. 第 39 回日本看護学会(精神看護), 神戸, 8 月.

阿部由香 (2008). 精神障害者通所授産施設利用者の日常生活における困難さに関する認識. 第 16 回精神科リハビリテーション学会学術学会, 東京, 11 月.

阿部由香 (2009). 文献にみる医療における多職種連携に関する現状と動向. 第 19 回日本医学看護学教育学会学術学会, 和歌山, 3 月.

田中留伊, 森千鶴 (2008). 覚せい剤精神病患者に対する断薬への援助—6 ステップメソッドを応用して. 日本看護研究学会誌, 31 (3), 250.

須藤淳, 石崎有希, 山田洋, 藤森里美, 田中留伊, 森千鶴 (2008). 医療観察法における看護師による疾患教育導入プログラムの効果. 日本看護研究学会誌, 31 (3), 250.

田中留伊, 瀧口宗宏 (2008). 高等学校における規制薬物を乱用する生徒への対応の現状. 日本アディクション看護学会第 7 回学術大会, 東京, 12 月.

緒方正通, 田中留伊, 板山稔 (2008). 精神看護学実習の満足感とその影響因子に関する研究—アンケートによる成人看護学実習との比較. 第 6 回国立病院看護研究学会学術集会, 仙台, 12 月.

佐藤靖子, 田中留伊, 板山稔(2008). 児童精神科病棟の看護師が子どもとの関わりで抱く感情と関連要因. 第6回国立病院看護研究会学術集会, 仙台, 12月.

田中留伊, 瀧口宗宏(2009). 首都圏の高校における規制薬物を乱用する生徒に対する学校の対応についての調査結果. 平成20年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業) 規制薬物を乱用する生徒への対応についての研究会, 東京, 1月.

瀧口宗宏, 田中留伊(2009). 規制薬物を乱用する生徒への対応における学校と警察の連携(分担研究). 平成20年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)薬物需要削減対策における関係機関の連携公開検討会, 東京, 3月.

老年・在宅看護学(老年看護学)

[論文]

斉藤真由美, 三笠里香, 佐藤鈴子(2009). 退院予定患者を訪問看護ステーションへ紹介する時期が在宅療養への移行に及ぼす影響. 国立病院看護研究会誌, 5(1), 20-29.

[研究助成および研究成果報告書]

山内豊明, 三笠里香(2008). シミュレータを用いたフィジカルアセスメントに関する継続教育プログラム効果の検討. 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「看護実践能力育成につながる看護技術教育の方法の開発と評価標準の作成」平成19～20年度総合研究報告書, 75-87.

三笠里香(2008). 臨床実践家における教育プログラムの開発とその有効性及び実効性についての検証(分担研究). プロフェッショナルキャリア形成を導くフィジカルアセスメント教育モデルの構築と評価(主任研究者: 山内豊明). 平成20年度科学研究費補助金.

[講演・学会発表]

斉藤真由美, 三笠里香, 佐藤鈴子(2008). 退院予定患者を訪問看護ステーションへ紹介する時期が在宅療養への移行に及ぼす影響—訪問看護師の視点より. 第6回国立病院看護研究会学術集会, 仙台, 12月.

国際看護学

[論文]

Higuchi, M. (2008). Integration complementary medicine into community health system. *Proceeding of Qualitative Health Research, 1*, 37.

[著書]

樋口まち子(2008). 災害看護と異文化理解. NPO 災害人道医療支援会(HuMA)災害看護研修委員会編, グローバル災害看護マニュアル改訂版. 真興交易医書出版部, 102-114, 東京.

樋口まち子(2009). 新体系看護学全書 39 看護の統合と実践③ 国際看護学. 田村やよひ編, メヂカルフレンド社, 11-52, 93-99, 107-125, 143-171, 204-209, 東京.

[誌上発表]

Shimizu, M. (2008). Preliminary Findings: Problems and further improvement of maternal care in Senegal. *Japan Medical Association Journal, 51*(2), 128-130.

清水真由美(2008). 海外での土地柄に適した保健活動—セネガル保健人材開発促進プロジェクト—. 保健の科学, 50(8), 553-556.

[研究助成および研究成果報告書]

樋口まち子(2008). 高齢化に応じた地域医療システムにおける代替医療プログラム開発. 平成17～19年度科学研究費補助金(萌芽研究)研究成果報告書.

樋口まち子(2008). 開発分野におけるケースメソッドの展開—ニーズに基づく国際連携を目指して(分担研究)(主任研究者: 山口しのぶ). 科学研究費補助金基盤研究(平成18～20年度).

樋口まち子(2008). 発展途上国の看護職等人材養成及び看護サービスの実態調査(分担研究). 平成20年度厚生労働省国際医療協力研究委託事業.

[講演・学会発表]

Higuchi, M. (2008). *The case of low birth rate in Japan*. The 17th International Council on Women's Health Issues, Botswana, July.

Higuchi, M. (2008). *Integration of complementary medicine into community health system*. The 14th Qualitative Health Research Conference, Alberta, October.

Higuchi, M. (2009). *Procedure of Qualitative Research*. JICA MP-reproductive health care Project, India, Bophal, March.

- 樋口まち子(2008). シンポジスト, 看護実践能力の向上をめざした看護教育: 国際看護. 平成 20 年国立病院機構付属看護助産学校副学校長・教育主事・教員夏期研修会プログラム, 東京, 8 月.
- 樋口まち子(2008). 国際協力と異文化理解. 国際災害看護研修, 東京, 11 月.
- 樋口まち子(2008). 国際看護教育の目的と意義について. 国際看護交流協会国際看護教育コース, 東京, 11 月.
- 樋口まち子(2008). 国際看護活動と異文化理解. 国際看護交流協会国際看護教育コース, 東京, 11 月.
- Higuchi, M. (2008). *Primary health care through nursing perspectives*. Joint Conference of the 49th Annual meeting of Japanese society of tropical medicine and the 23rd Annual meeting of Japanese association for international health, Tokyo, October.
- 樋口まち子(2009). 国際看護. 国立病院機構名古屋医療センター付属名古屋看護助産学校, 名古屋, 2 月.
- 清水真由美(2008). 技術協力プロジェクトの評価—評価される立場から. 日本国際保健医療学会, 東京, 10 月.